

< 様式 6 >

畜産試験場試験・研究課題事後評価表

畜産試験場課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名：飼料費高騰に対応した飼料給与体系の確立

小課題名：エコフィードを活用した豚肉生産技術の確立

細目課題名：

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	4 / 5	短期間でエコフィードの実証ということで、経済性の検討がやや物足りないが、飼養成績では当初の研究目標は十分に達成している。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	4 / 5	県内で生産が期待されたエコフィードの有用性を示したものの、生産の見込みが立っていないため普及性はやや低い。しかし原料により飼養成績へ影響があることを示すなど、今後のエコフィード作成の有用な情報を提供している。
3 研究の発展性	3 / 5	エコフィードの原料により食味性に影響があり、エコフィード普及の上でもこの点の研究が有用また長期給与試験のデータが必要。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	県内で生産が期待されるエコフィードの利用推進ということで行政ニーズは高い。養豚現場の期待も大きく課題選定は妥当と評価。
総合評価	4 / 5	研究成果はおおむね評価できる。使用したエコフィードの生産の見込みが立っていないため普及性がやや低い。しかし得られたデータは今後のエコフィード作成に有用であり、畜産行政の推進に役立つと評価。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

今後の試験研究の中で、エコフィードの給与と食味の関連や長期給与等について検討を行なうとともに、エコフィード作成のためのデータの収集と情報の提供に努めたい。

< 様式 6 >

畜産試験場試験・研究課題事後評価表

畜産試験場課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名：畜産物の品質改善

小課題名：夏季における採卵鶏の卵質低下防止技術の開発

細目課題名：

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	5 / 5	目標とした卵質、特に卵殻強度の低下防止技術を開発しており、その内容もたいへん興味深い成果で、達成度は高いと評価。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	5 / 5	温暖化の影響で夏季の暑熱対策は急務であり、普及性の高い成果として評価できる。
3 研究の発展性	5 / 5	卵質が改善されるメカニズム、塩や重曹の適正濃度にはまだ研究の余地がある。研究論文にすることで学術的評価や指導を受け、さらに研究を進展させることも期待される。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	温暖化の影響で夏季の暑熱対策は急務であり、妥当性は高い。
総合評価	5 / 5	温暖化の影響で夏季の暑熱対策が急務とされる中で、目標とした卵質、特に卵殻強度の低下防止技術を開発しており、研究の内容、成果とも評価でき、普及性も高い。学術的評価も受けることでさらに研究を進展させることも期待される。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

夏期の暑熱時の卵質改善技術としては普及性が高いと考えられる。研究論文や学会発表などにより公表し、専門家等の指導を受けながら技術の普及を図っていききたい。

< 様式 6 >

畜産試験場試験・研究課題事後評価表

畜産試験場課題評価委員会

試験・研究課題名：

大課題名：飼料費高騰に対応した飼料給与体系の確立

小課題名：初期栄養の改善による肉用鶏の生産性向上技術の確立

細目課題名：

評価項目	評価点	指摘事項
1 研究目標の達成度	5 / 5	目標とした初期栄養の改善による生産性向上について、たいへん興味深い成果が得られており、達成度は高いと評価。
2 成果の有用性 (普及性、波及性)	5 / 5	餌付け時のみの給与による生産性向上で、成果の独自性も高く、有用性、普及性も期待できる。発育の遅い銘柄鶏等への応用も期待される。
3 研究の発展性	5 / 5	分岐鎖アミノ酸の作用の解明に関する研究への発展が期待される。また独自性の高い成果でもあることから、研究論文として学術的評価を受け、研究を発展させることも期待される。
4 研究課題選定の妥当性	5 / 5	肉用鶏の飼料要求率の改善が進まない中で飼料費が高騰しており、要求率改善の社会的ニーズは高い。研究内容も独自性があり課題の妥当性は高い。
総合評価	5 / 5	餌付け時のみの給与による生産性向上で、成果の独自性も高く、有用性、普及性もたいへん評価できる。また栄養生理学の面でもたいへん興味深い成果で、さらなる研究の発展も期待できる。

「注」 評価点の目安

評価	高い	やや高い	普通	やや低い	低い
点数	5	4	3	2	1

試験研究機関の処置

ふ化直後の栄養制御による生産性の改善であることから労力、コストとも負担が少ない技術であり、普及性は高いと考える。今後、論文発表を行なうとともにやまなしの銘柄鶏への応用を図っていきたい。